

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	希望の丘豊橋（放課後等デイサービス）			公表日	令和 8 年 4 月 1 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		みんなで声をかけ合い、子どもの動きに合わせて配置を考えている。（安全に見守ることができるようにしている）	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		遊びが発達向けなものが多いので、小学生向けの遊びも考え提供していく。	過ごす時間が短いこともあり、設定した活動に能動的に参加する子どもは多くありません。ただ、中でも一人ひとりに合う『やりたい!』と思える活動や小集団での遊びは考え、提供していけるよう今後も努力していきます。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		落ち着ける環境として、誰も使っていない部屋を提供する時がある。	時間帯ごと利用していない部屋や空間が必ずあるので、子どもと相談しながら適宜利用できるようにしています。空間的な環境のみならず、人的環境などにも配慮をしています。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			毎年2月に事業所向け自己評価及び保護者向け評価を実施し、4月にホームページで公表しています。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		外部評価は受けていないので、必要に応じて検討します。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○			どの職員でも受講したい研修を積極的に受けられるよう、職員同士のバックアップ体制とその意識を整えています。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		職員がそれぞれの視点から見た子どもの姿を共有し、計画を作成している。 子どもに対してニーズを聞き取り、個別支援計画を作成している。	アセスメントは経験値が影響する部分が大いので、主となりアセスメントを取る職員にプラスして、できる限り多くの職員の視点も含めるようにしています。
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			

適切な支援の提供

15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		JSI-RやJPANなど、感覚調整や行為機能の問題の目安となるフォーマルなツールを導入しています。ただ、検査に関しては時間がかかるなどで気軽に行えるものではないため、インフォーマルな臨床観察を大切にしたいと思っています。その為の知識や視点は、今後も研鑽していきたいと思っています。	
16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○	放課後等デイサービスの利用児を対象とした「地域支援・連携」として、近隣の店舗へのお買い物体験、児童クラブとの活動（感性教育）などを行い、前年度以上に力を入れて取り組んだ。	モニタリング、アセスメントを丁寧に、各項目に対しての目標を定めて支援計画を作成しています。個別支援計画は本人にとってわくわくするものであることが大切なので、具体的な支援内容には読んでいて楽しみになる内容も含めています。	
17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○	毎週木曜日に翌週の活動の話し合いを行っている。		
18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○	のびのびと過ごせる時間を大切にしつつ、クッキングやサーキットなどの活動を楽しめる工夫を行った。	放課後等デイサービス（就学児）でしか経験できない活動も定期的に取り入れる形で計画を立てました。	
19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせさせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○	集団活動の設定として、身体を十分に動かす要素は必ず取り入れるようにした。個別で始めた遊びが徐々に集団へと広がっていく瞬間もあり、“一斉に”ではない個々の気持ちの変化を大切に支援を行うことができた。	小集団と個別をバランスよく組み合わせ、机上では学ぶことができない要素がたくさん含まれた時間を過ごすことができたと思います。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○	毎朝ミーティングを行い、1日の流れや活動などについて話し合いを行っている。		
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○	△	時間帯によっては伝えられない時もあるので、翌朝のミーティングで情報を共有するようにしている。打ち合わせはできていないが、気になる子どもの姿の共有は行っている。支援終了後に話し合うことができていない。	勤務時間の違いから、支援終了後に必ず話し合いが行えていないという実態があります。話し合いは行えていませんが、気付く等は管理者に伝えて退勤しており、管理者から他の職員に伝達しています。
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○			
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○	△	子どもが楽しみながら取り組める支援を、職員がアイデアを出し合って常に考えている。	「4つの基本活動」とは「自立支援と日常生活の充実のための活動」「創作活動」「地域交流の機会の提供」「余暇の提供」を指します。日にちで設定する場合もあれば、様々な項目が1日のうちに複数組み合わせられている場合もあります。
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○			基本的に職員側が強制するような支援は行っていません。活動に関しても誘うことはしますが、その子のタイミングで参加ができるような工夫（『やりたい！』という気持ちを引き出すような直接的・間接的な工夫）をもって支援することを心掛けています。
26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			

関係機関 や保護者 との連携	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○				
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		必要に応じて小学校へ行き、担任の先生と情報共有を行ったり、子どもの様子を見学したりしている。	保護者の要望をもとに、小学校と連携を取らせていただいています。連携を取らせていただいた後は、必ずフィードバックをしています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○				
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。			対象者なし		対象者なし
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		○			障害児療育支援事業の案内は頂いており、子どものピックアップまではしていましたが令和7年度はそこから先、動くことができませんでした。令和8年度は積極的にこのような事業を取り入れて助言等受けたいと思っています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。	○		隣接の児童クラブに、行きたい時に遊びに行くことができる。 長期休業日には、児童クラブ主催の絵の具あそび、流しそうめん、餅つき等へ積極的に参加し、同じ学齢期の子ども達との交流を深められる機会を作った。 児童クラブと合同で、Xmasコンサートなど感性教育の場も企画した。	放課後等デイサービスは曜日固定なので、イベントには参加できなかった子ども多かったです。遊びに行き交流を図ることはいつでも可能なので、子どもと相談しながら今後も積極的に出向いていきたいと思っています。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○			自立支援協議会には参加ができていません。機会があれば参加をしていきます。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		常に話しやすい関係性を作っている。 送迎時に様子を伝えたり、家庭での様子を聞いたりしている。		
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○	△	『つむぎの会』を開催している。		プログラムとしての支援は行っていません。 必要な方へは相談に応じたり、施設等で行っている支援方法をお伝えしたりしています。 また、令和7年度から開始した『つむぎの会』にて、保護者の方の気持ちを気軽に出していただく機会を作っています。
	保護者	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○			
37		放課後等デイサービス計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		子どもの意見を聞いて、希望に向けた支援を行っている。	年齢が上がるにつれて自分の意思が表出できるようになってくるので、保護者の意思だけではなく子どもの意思がしっかり反映された計画作成を心掛けます。	
38		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○				
39		家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		『つむぎの会』でゆったりと話を伺うことができた。		
40		父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		イベント開所で、保護者やきょうだい児も参加してもらっている。		

への説明等	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			苦情は現在までありませんが、何かご意見等いただくことがあった場合は保護者の方の思いを丁寧に傾聴した上で内容の本質を見極め、事業所としてできることを伝えたり一緒に考えたり、調べたりしていくようにしています。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		『活動記録』にて、利用している子ども達の姿(成長)が伝わるように発信した。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			一人ひとりに合わせた配慮を行っています。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	お買い物体験で地域の方と交流している。	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		避難訓練を行っている。	令和7年度は、消防署へ提出した避難訓練に加え、ふれあいセンター合同の避難訓練や引き渡し訓も行いました。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		すぐに確認できるよう利用者情報に目印をつけているので把握しやすい。	契約時のアセスメントで、対応方法も含め丁寧に聞き取りを行っています。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○			
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○			